令和４年度学校関係者評価

鹿屋市立鹿屋看護専門学校

【評価基準】 2.5～３：適切、2.0～2.5：ほぼ適切、1.0～２.0 未満：やや不適切、1.0 未満：不適切

	項目	評価　　令和４年度	令和３年度
Ⅰ	教育理念・教育目的	評価点 2.7(適切)	評価点 2.9(適切)
	教育理念、教育目的	・前年度と比較し 0.2 ポイント低下。前年度は新カリキュラムの導入に伴い教員の意識も高く総合評価点が最高値となった。教育理念・教育目的・教育目標は、学校要覧・学生便覧・シラバス・教育内容・実習要項すべてに記載されており、学生・職員をはじめ関係者に周知された。新カリキュラム導入して１年目だが、改めて教員各自が当校の教育上の特徴を意識した教育活動を遂行していくことの必要性を意識化していると考える。	
Ⅱ	教育目標	評価点 2.8(適切)	評価点 2.9(適切)
	教育目標	・教育目標は教育理念・教育目的と一貫性があり、卒業時の到達目標をふまえて各学年の教育目標が設定されている。教育目標は実践可能な具体的表現となっている。	
Ⅲ	教育課程	評価点 2.5(適切)	評価点 2.6(適切)
	教育課程 教育課程評価 教員の教育活動の充実 学生の看護実践体験の保障	・教育内容は、看護師養成所の指導ガイドラインに沿って令和４年度カリキュラム改正に伴って教育科目を設定し、学修の到達目標が編成されているが、運用上の課題もあり昨年度から 0.1 ポイント低下した。学修の到達と学生の成長について明確な根拠の情報共有をしていく必要がある。 ・単位履修の方法や評価、単位認定基準や方法については、学生便覧等に記載し、丁寧に説明して動機付けられるよう働きかけており妥当と考える。 ・「教員の教育・研究活動の充実」は 2.0 とほぼ適切であるが、昨年度より 0.2 ポイント低下した。各教員が自主研修に参加できるように調整し専門性を活かした授業配分としているが、日々の業務では、学生に応じた学習個別指導等の時間や、COVID19 に伴う学内実習との調整や演習準備等の影響もあり、授業準備時間確保は困難な状況である。 ・実習に関しては、0.2 ポイント低下である。実習目標や留意点等は事前の実習指導者会議等で共有しているが、学生の学びを補償するためにも臨地での情報共有は必須である。COVID19 の影響により臨地実習が十分にできない中に実習指導者不在の場面もあり、関りが減少したのも要因の一つと考える。実習指導の充実が図れるよう実習指導者会等で連携に努める必要がある。	
Ⅳ	教授・学習・評価過程	評価点 2.5(適切)	評価点 2.7(適切)
	授業内容間の関連と	・新カリキュラムの開始に伴い、授業の重複内容を確認修正し、シラバス	

	発展 授業展開 教員間の協力 評価とフィードバック 学習の動機づけと支援	や教育内容の見直しを実施したことで整合性がとれている。 ・授業方法については、特に看護技術演習等チームティーチングで教員間が協力することが有効である。教科担当が協力要請するとともに、各教員も状況を見極めて協力する必要がある。 ・評価計画は始業時シラバスで提示し、授業評価は各教科当が終了試験を担っている。基礎看護技術試験に関する評価方法や結果分析は、教育会議等で検討し情報共有を行い学生にフィードバックしている。 ・「学習への動機づけと支援」は 2.5 と適切であるが、昨年度から 0.3 ポイント低下した。新カリキュラム初年度や感染対策など諸要件が重なり、時間割調整や評価等の課題も明らかになった。学生が何を学ぶのか、学びを充実させられるように動機づけしながら、支援方法を検討する必要がある。	
V	経営・管理過程	評価点 2.5(適切)	評価点 2.7(適切)
	組織体制 財政基盤 施設設備 学生生活の支援 情報提供 運営計画と将来構想	・組織体制や意思決定システムは運営ガイドで提示し、年度初めに説明し、職員に周知している。 ・令和 4 年度は、1 年生：新カリキュラムと 2・3 年生：現行カリキュラムと併行業務であったが、カリキュラム推進委員会を中心に各職員が理解し取り組んでいる。 ・意思決定システムは運営ガイドに提示しており、業務や会議を通じて意見交換できる場は設けてあるが、経験年数の枠等を越えて各々が自由に意見を言いあえる環境が必要である。 ・老朽化した設備や備品は、予算立てしながら随時改善に努めている。感染対策として各出入口に体温測定・消毒機能付きディスペンサーが設置され効果的であった。防犯上の観点から学生の安全な学習環境整備にも努めた。今後は更なる防犯対策として防犯訓練の実施も検討する必要がある。 ・養成所に関する情報提供も、ホームページ等により積極的に行った。 ・「学生生活の支援」は、給付型奨学金の導入や授業料減免制度等による支援、カウンセラーによる相談体制が整備され、学生は適宜活用している。今年度は進路変更に伴う 1 名の退学者があった。学生個々の対応は担任を中心に窓口となり、教員間で共有することで学生生活を支援している。清掃活動を学年縦割りとし、学生間交流によるピア活動は効果的であった。 ・教員採用に関しては、精神看護学を含めた専任教員の人材確保の見通しがたち、実習指導教員確保の継続も、教育の充実につなげることができた。	
VI	入学	評価点 2.7(適切)	評価点 2.8(適切)
	入学者選抜 入学状況、入学者の推移	・本校の教育理念・教育目的に基づいて学生募集を実施している。入学試験や、簡易開示は入学試験委員会等により適切に審議処理されている。 ・看護学校への関心度は高く、オープンキャンパスや学校訪問、個別の見学、キャリア教育や就職ガイダンス等では、希望者や保護者に丁寧に対応した。	

		・今年度A日程応募者は例年より多かったものの、B日程応募者の激減に対し、二次募集試験を実施し定員確保した。地域の看護を担う優秀な看護学生の確保のためには、今後の少子化や周辺看護学校の動向等をより把握した対応が必要である。	
Ⅶ	卒業・就職・進学	評価点 2.2（ほぼ適切）	評価点 2.5（適切）
	卒業時の到達状況 就業・進学 卒業生の把握	・卒業時には、卒業時の到達度に関するアンケートを実施し分析している。看護技術に関しては、経験が浅かった項目に関して卒業前演習を実施し補充した。 ・卒業生の動向に関しては、同窓会組織はあるものの卒業以降の異動や就業先の評価の把握には至っていない。 ・本校は後輩の応援や近況報告、相談等によく卒業生が来校する。その際には、在学時の学びをどのように臨床で活かしているか活動状況をインタビューし、基礎教育評価の機会としているが、今後はより積極的に就職先や地域の看護協会新人教育等との連携も図る必要がある。	
Ⅷ	地域社会・国際交流	評価点 2.2(ほぼ適切)	評価点 2.3(ほぼ適切)
	地域との連携と社会への貢献 国際的な視野を広げるための授業や環境整備	・鹿屋市立の学校として、市と連携して広報やホームページの充実を図っている。 ・新カリキュラムによる初の試みで1年次に地域活動を教科外活動として設け、星塚敬愛園や歴史史料館を見学し、看護学生の視点から地域の特性を理解した。 ・実習は鹿屋市内の実習施設を中心に実施し、地域の保健・医療・福祉の特徴や魅力を理解した。 ・地域就職率については、市内就職：52%、県内就職64%と、前年度より市内就職率は向上した。さらに帰属意識を高揚し地域社会貢献できるよう進路指導における就職案内情報提供等を工夫していく必要がある。 ・「国際交流」は例年低値項目であるが、国際的視野を広げるために外国語Ⅰ-Ⅱや文化人類学、国際看護の科目内容は充実している。感染対策のため、異文化交流による海外の学生との交流はできていない。 ・地域の海外出身者からの入学希望の問合せもあるが、留学生も含めた受入れ体制は整っていない。	
Ⅸ	研究	評価点 1.7(やや不適切)	評価点 1.6(やや不適切)
	教員の研究活動の充実	・例年最も低値の項目で1.7（やや不適切）であるが、今年度は0.1ポイント上昇した。前年度学校関係者評価委員会で助言頂き、他校の研究発表とのオンライン交流や学外講師による助言で、視野が拡大し意識向上したことがわずかなりとも成果と言える。 ・感染対策による校内実習等もあり、看護研究研修の参加や日々の業務で研究活動を検討したり、支援する体制整備は不十分である。	